

京都府戦略的地震防災対策推進部会 結果概要

1 開催日時

平成25年3月27日（水） 午前10時～12時

2 場 所

京都府職員福利厚生センター 3階 第1会議室

3 出席委員

林委員、明致委員、吹田委員、牧委員、窪田委員

4 結果概要

- 戦略的地震防災対策推進プランについて、資料1を基に点検・見直しすることを了解。本日の議論の内容を踏まえ、事務局で修正案を作成。
- 推進事業の進捗度の評価基準について、資料3のとおり、「完了」のほか、ソフト事業の「定着化」についても目標を達成したと認められるレベルとすることで了解。

（主な意見）

点検・見直しの方針について

- 東日本大震災の発生や南海トラフ巨大地震の被害想定発表等、外的状況の変化に対応するために、見直しを実施することは必要。
- ただし、推進プランはもともと府内では南海トラフの地震より大きな被害が想定される直下型地震を念頭に事業を集約しているので、一から抜本的に見直すのではなく、現在のプランを前提に必要な増強を行うというスタンスで良い。
- 内容を変更するにあたっては、変更前の履歴を残すことや、変更に至った経緯・方針を明記し、それに従って変更を行ったことを明確にすることが必要。

耐震化について

- 防災拠点施設、府立学校については、当初の目標を達成する見込みであり、今後更なる耐震化を推進するため、目標を見直しても良いのではないかと。
- 京都府として率先する意味合いから、府立学校の耐震化は、全ての施設について完了させることを目標としても良いのではないかと。
- 耐震改修促進法の改正で、耐震化が必要な施設の裾野が広がっていく。今後はそういった変化に対応できているかという視点でも点検してはどうか。

民間賃貸住宅の利用について

- 民間賃貸住宅の利用は、長期的な利用として仮設住宅に近い位置づけであり、短期的に利用する旅館・ホテル等の一時利用とは区別して進捗を図る方がよいのではないかと。
- 復興の考え方として「住まい」に着目し、発災から復興までを一連の流れで捉えるのも一つの考え方であり、次の5箇年計画で検討しても良いのではないかと。

多様な視点での防災対策について

- 多様な視点での防災対策の項目について、東日本大震災の教訓を踏まえ、女性の視点を盛り込んだのは有意義である。同時に要配慮者等、特別なニーズを持つ被災者の視点も検討を進めて欲しい。

広域応援について

- 広域応援については重要であるが、応援を受ける体制も併せて検討しておくことも重要である。
- 受援に関する事業については5の「災害後の府民生活を守る」の項目にも繋がるところがある。そういった視点で点検してみるのも良いのではないかと。

経済対策について

- 南海トラフ巨大地震の被害想定を見ても甚大な経済被害が発生することが分かる。京都全体の経済を検討する新たな枠組みとしての「京都BCP」は有意義な取組であり評価できる。

津波対策について

- 日本海側の津波については、推進プランに対策を位置付けるほどの科学的知見が得られているわけではないが、現実に来ることから実施している事業もある。そうであるなら「科学的な根拠を基に浸水想定を検討する」のような項目があり、その上で個々の事業を考えるという構成がわかりやすい。

その他

- 男女共同参画の視点及び避難所運営マニュアルを作成することは、よい取組であるが、さらに進めて、その後の訓練の実施についても検討してはどうか。